

平成28年度 第1回 国立大学法人鹿屋体育大学経営協議会 議事要旨

1. 日 時 平成28年6月1日（水） 10時00分 ～ 11時50分
2. 場 所 【鹿屋体育大学会場】 鹿屋体育大学管理棟2階 大会議室
【東京会場】 筑波大学東京キャンパス文京校舎3階 320講義室
3. 出席者 〔学内委員〕 福永、川西、中禮、原田の各委員
〔学外委員〕 上治、岡崎、小舘、宮嶋の各委員
4. 列席者 金久副学長、緒方監事、岩重監事、荻田学長補佐、瓜田学長補佐、森（司）学長補佐、向井事務局次長、事務局各課長

5. 内 容

（質疑の○は学外委員の発言を、●は学内委員及び学内者の発言を示す。以下同じ）

議事に先立ち、学長から4月1日に就任した池ノ上学生課長、宮園学術図書情報課長、藏田総務課長及び永松財務課長の紹介並びに事務局から会議のスケジュール及び配付資料の確認が行われた。

1) 前回議事要旨確認

平成27年度第6回経営協議会の議事要旨（案）について確定された。（資料1）

2) 審議事項

(1) 国立大学法人評価（第2期中期目標期間の評価）に関する実績報告書について（資料2）

中禮委員から配付資料に基づき、国立大学法人評価（第2期中期目標期間の評価）に関する実績報告書について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

- 海洋スポーツセンターが行っている取り組みはどのようなものがあるのか。
- 学長裁量経費でアスリート支援のための研究を行っている。
- 競技力と地域貢献の2本柱で実績を上げている。ホームページ等を活用して、地域貢献と海洋スポーツの振興を、対外的に見えるような形を取りたい。
- 資料2-2 32ページに記載のあるとおり、平成26年度に、鹿屋市と「海洋スポーツ資源調査事業」の受託事業契約を締結し海洋スポーツの振興・普及に向けた事業を実施した。その他には、学長杯オープンヨットレースや海洋スポーツセンター協力者会議等を行っている。
- 資料をまとめる上での特に意識した点などはあるか。
- 何を特色としてアピールしていくかを意識してまとめた。研究部門に関しては、スポーツ科学研究の論文をインパクトファクターを基準にして作成した。競技力向上に関しては実技系の教員のコーチングの評価をアピールした。
- 競技力に関しては、国際大会以上の成績、また研究業績に関しては、インパクトファクター

3.0以上に絞って記載した。第2期に関しては目標に対して、満足する成果であった。第3期に関しては、スポーツパフォーマンス研究棟を中心とした研究業績を実りあるものにしなくてはならない。

- この報告書は、大学の評価につながる貴重な資料であるが、大学改革支援・学位授与機構は個別のヒアリングを行っているのか。
- 文部科学省による法人評価のヒアリングは例年8月頃に行われる。大学改革支援・学位授与機構は第1期の時は現地調査を行ったが、今回は書面による評価が中心となり、個別の現地調査は行わない予定である。
- 体育・スポーツ科学の今後の異分野との連携が重要であると考えられるが、それに関する具体的な取り組みはあるか。
また今後、スポーツに関しても過去のデータの蓄積が重要になると考えられる。鹿屋体育大学が保有するスポーツに関する貴重なデータを今後に向けて有効に使うことができれば次の東京オリンピックに活かせるのではないか。
- スポーツエンジニアリングという分野で、本学の教員と工学系の教員がスポーツパフォーマンス研究棟において共同研究を行っている。それ以外にも様々な分野から共同研究の話がある。今後、スポーツパフォーマンス研究棟を活用し、そういった共同研究のグループが出来ていくのではないかと期待している。そういう意味では今、スタートが切れているという状態である。
- 異分野との共同研究を推進することで、教員の研究意欲や新しい視点が増やせる。また論文の数も増加すると期待される。オリンピックも控えているので国民や研究者の興味も集まるのではないか。
- マルチサポートに関する鹿屋体育大学の取り組み状況はどうか。
- 過去には海洋スポーツセンターでトップコーチを教育していくプログラムがあったが、現在のところ具体的な案件は無い。スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクト（SRIP）に本学も応募したが、採択されなかった。
- 他大学の例もあるので、スポーツパフォーマンス研究棟を活用してマルチサポートについて鹿屋体育大学もアピールしていただければと思う。
- 女子アスリートと貧血の問題がある。この問題に関して、医学系の分野と連携して研究することが重要である。鹿屋体育大学としてできることは多いのではないか。

(2) 平成27事業年度に係る財務諸表等について（資料3）

中禮委員から配付資料に基づき、財務諸表（平成27事業年度分）について財政状況及び運営状況の概要等について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

- 収益の大部分を占める運営費交付金は毎年減額されているが、今後の見通しはどうか。
- 第3期から新たな運営費交付金の配分の仕組みが今回できた。今回については運営費交付金の総額は変わらなかったが、社会の状況を踏まえると今後、逡減される可能性がある。
- スポーツ界全体として収益の増に取り組んでいる。またスポーツ庁も収益の増を推進して

いる。その中で、鹿屋体育大学も運営費交付金の見通しが悪いのであれば自己財源の増加に取り組まなくてはならない。

(3) 平成29年度鹿屋体育大学概算要求（施設整備費補助金）について（資料4）

中禮委員から配付資料に基づき、施設整備費補助金事業の要求内容等について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

3) 報告事項

(1) 平成28事業年度における会計監査人の選任について（資料5）

中禮委員から配付資料に基づき、本法人の会計監査人として「有限責任監査法人トーマツ」を第一候補者とし、文部科学省に提出した旨報告があった。

(2) 平成28年度重点プロジェクト事業経費について（資料6）

中禮委員から配付資料に基づき、平成28年度の重点プロジェクト事業経費の採択件数（17件）及び採択額が決定したこと等の報告があった。

(3) 平成28年度科学研究費助成事業の採択状況について（資料7）

中禮委員から配付資料に基づき、平成28年度の科学研究費助成事業の採択件数（継続26件、新規11件）及び配分額等の報告があった。

(4) 寄附研究講座の設置について（資料8）

川西委員から配付資料に基づき、寄附研究講座の設置についての説明があった。

○ この件についてネーミングライツは行ったのか。

● 本件に関して、ネーミングライツは行っていない。

4) 学内外の諸情勢について

(1) オリンピック出場者について（資料9）

事務局（事務局次長）から配付資料に基づき、リオデジャネイロオリンピックに出場する本学関係者について報告があった。

(2) 学生の競技成績について（平成28年3月～5月）（資料10）

瓜田学長補佐から配付資料に基づき、平成28年3月から5月までの本学学生の競技成績の報告があった。

(3) 国際競技大会特別強化選手の選考について（資料11）

瓜田学長補佐から配付資料に基づき、国際競技大会特別強化選手として12名を選考したことについて報告があった。

(4) 平成 27 年度卒業・修了者の進路状況について（資料 12）

事務局（教務課長）から配付資料に基づき、平成 27 年度卒業生及び修了者の進路状況の報告があった。

(5) 平成 28 年度在籍学生数について（資料 13）

事務局（教務課長）から配付資料に基づき、平成 28 年 5 月 1 日時点の本学の在籍学生数の報告があった。

5) その他

(1) 平成 28 年度の経営協議会開催日程について（資料 14）

事務局（経営戦略課副課長）から配付資料に基づき、今年度の経営協議会の開催日程の説明があった。

(2) 意見交換

時間まで意見交換がなされた。内容は以下のとおり。

- 資料 4 について、オリンピック・パラリンピックのサポート体制の強化とあるが、具体的にはどのようなことを計画しているのか。
- オリンピック・パラリンピック戦略推進室で検討中であるが、具体化されている計画はまだない。今行っているのは、鹿屋市と協力して各国の代表選手を鹿屋市に招致することを進めている。各国の代表を招致し、本学の施設を使用して合宿を行っていただければと思う。
- 代表を招致し本学で合宿を行った場合、教育とのすみ分けが難しい。学生の長期休業期間における利用等を含めて検討していきたい。
- 他大学の例であるが、近隣自治体と連携してオファーを出した事例もある。鹿屋体育大学だけで検討するのではなく、鹿屋市全体としてどう動くのかが重要である。
- 鹿児島県では鹿児島県観光課が中心となって、事前合宿の受入れが可能かどうかの調査を行っている。また、鹿児島県が中心となって各国の NOC と直接交渉を行っている。鹿屋体育大学として受け入れられる条件としては、鹿児島県や鹿屋市の動向がまだ定まっていないため、動きにくいところがある。鹿屋市には検討するように依頼している。
- 具体的なアイデアを自治体に向けて出さないと自治体も動きにくいというところもある。
- 地方は積極的に誘致に取り組んでいるが財源をどうするかも問題である。ただ希望するだけでは誘致は難しい。
- 修士課程の就職状況について、年によってばらつきがあるが、年々傾向が変わるものなのか。
- 修士の入学定員が 18 名なので、総数が小さいということも影響していると思われる。

以上